

## 「蒲原小中一貫校校舎建設基本計画案」パブリックコメント募集結果

1. 募集期間 令和4年3月25日（金）から令和4年4月25日（月）まで
2. 募集方法 郵送、FAX、教育施設課への持参又は市ホームページからの電子申請
3. 募集結果 (1) 意見提出者 24人 (2) 意見数 46件
4. 意見提出者の属性

○性別	(人)	
性別	男性	女性
件数	11	13

○年代	(人)								
年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	空欄	
件数	0	2	3	10	3	3	2	1	

○居住地	(人)				
居住地	葵区	駿河区	清水区	市外	
件数	2	1	21	0	

番号	ご意見【タイトル】 内 容	回答
1	<p>【「計画の目的」の項目に対して、学校の在り方を決める際の市民の参加方法についての意見】</p> <p>施設一体型の小中一貫校の要望はそもそも子育て世代の参画は少ない状態で自治会や一部の地域住民から出されたものであり、準備委員会の在り方も女性が少なく、今後子育てに関わっているまたは現在子育てに関わっている市民の参加があったものではない。SDGsの17「パートナーシップ」の実現において工夫が足りないどころの話ではなく、「計画にあたり施設一体型校舎建設にあたり都合の良い市民だけで進めた、公共施設である学校の計画であるにも関わらず」と感じている。</p> <p>1「PTAから要望があった」とされているがその根拠を示して欲しい。※コロナ渦で地域の3校とも会合は開催されてない。</p> <p>2ワークショップの段階で蒲原西小学校のPTAアンケートを提出し、早い段階での「子育てに関わる市民」向けの説明会を要望したが実現しなかった。なぜ「パートナーシップ」を地域の幅広い市民と築く必要性をアンケートで把握していながら、基本設計を進めたのかをご説明いただきたい。</p> <p>3「地域の要望を受けて」施設一体型の計画になったとされているが、施設連携型の場合と並列して例示されわかりやすい説明が住民になされた訳ではない。選択の機会が無かったと感じている。地域の実情に応じ、地域住民の要望によって学校の計画がなされるべきと文科省ガイドラインにも明記されているが、計画に当たってどのような範囲で、どの程度の時間をかけ「施設一体型」の計画に至ったのか、議事録等の資料とともに明確な根拠を示して欲しい。</p>	<p>1. 蒲原地区施設一体型小中一貫校化への要望書について、蒲原地区連合自治会長、蒲原PTA連絡協議会長、蒲原まちづくり委員会長の連名で、令和2年5月29日に提出されています。</p> <p>2. 令和2年5月に要望書が提出された後、地域主導の「蒲原地区学校統合準備委員会」が随時開催されています（各小中学校のPTA会長等も委員に含まれています）。その中で、同年8月に学校統合準備委員会から保護者へのアンケート調査が実施されました。その結果を踏まえ、同委員会で、新しい学校で目指す子ども像やどのような学習を望むかなどについて協議し、同年11月には、どなたでも自由にご参加いただける地元説明会を行っております。</p> <p>3. 令和2年5月に提出された要望書において、「施設一体型」として要望されています。要望の背景として、蒲原地区での児童・生徒数の減少（蒲原西小は、令和2年度は全学年が単学級）及び蒲原東小の立地に対する不安があげられていました。施設一体型とすることで、特に、小学校はクラス替え可能な各学年2クラスの環境が長期的に確保でき、学習効果や社会性の向上に必要な子ども同士で切磋琢磨する機会がより増えるなど、教育環境のさらなる向上が図られることから、市としても議論・検討し、決定に至りました。</p>
2	<p>【住民への説明】</p> <p>基本計画の完成における住民説明を蒲原学習交流館で行ったようですが、他の場所や時間帯でも行う予定でしょうか。教員は異動がありますが、これから何十年と学校は地域の中心として、蒲原を引っ張っていくものです。基本計画に至るまでも、決められた地域住民しか参加していない中、せめて直接意見を聞く機会をもっと増やすべきです。年齢や住んでいる地域に関係なく…。なぜ蒲原中学校の敷地に小中一貫学校を造るのに、その近くに住民に説明会を積極的に行わないのでしょうか。学校は造って終わりではありません。完成して、子どもと教員と住民が認めて初めて学校になるのです。知らない間に学校ができていたなんて、それは学校ではありません。蒲原全体がわくわくする雰囲気になるようにもっと情報を広めていって欲しいですね。パブリックコメントを募集することはいいことだとは思いますが、やはり直接お話を聞きたいものです。先日の住民説明会での内容もどうなったのでしょうか…。ぜひカリキュラムを作成する段階に入りましたら、担当者の方々には蒲原に滞在してもらって、その身体で蒲原や小中学校の雰囲気を感じて欲しいです。担当者の方々にとっては静岡市の端で起きるプロジェクトの1つでしかないのかもしれませんが（少なくとも一住民としての感覚として）、蒲原を生かすも殺すも皆さんにかかっているといっても過言ではありませんのでよろしく願いいたします。</p>	<p>令和2年度から地域主導の「蒲原地区学校統合準備委員会」が随時開催されています（各小中学校のPTA会長等も委員に含まれています）。その中で、同年8月に学校統合準備委員会から保護者へのアンケート調査が実施されました。その結果を踏まえ、同委員会で、新しい学校で目指す子ども像やどのような学習を望むかなどについて協議し、同年11月には、どなたでも自由にご参加いただける地元説明会を行っています。頂いたご意見は、今後の事業運営の参考とさせていただきます。今後も、地域のご意見をお聴きしながら事業を進めていきます。また、地域への説明会については、お知らせするべき事柄が生じた際など、随時実施していきます。</p>
3	<p>【計画の地元住民の関与】</p> <p>蒲原東小学校と蒲原西小学校と中学校が統合されて、ある意味なくなってしまうので、地元住民が一部でも実際の計画に関与することで自分たちでつくった学校とするような方向性も検討していただければと思います。</p>	<p>令和2年度から地域主導の「蒲原地区学校統合準備委員会」が随時開催されています（各小中学校のPTA会長等も委員に含まれています）。その中で、同年8月に学校統合準備委員会から保護者へのアンケート調査が実施されました。その結果を踏まえ、同委員会で、新しい学校で目指す子ども像やどのような学習を望むかなどについて協議し、同年11月には、どなたでも自由にご参加いただける地元説明会を行っています。今後も、地域のご意見をお聴きしながら事業を進めていきます。</p>
4	<p>【蒲原地区小中一貫校設置準備委員会の設置】</p> <p>説明会に参加させていただきました。その意見・質問の中で感じたことがあります。教育委員会でも、いろいろなことを調べて、あの形の校舎等が発表されたと思います。ご苦勞様です。ワークショップを聞き、住民や子供たちの意見を反映しようと一生懸命取り組んでいただいたことにとっても感謝しています。しかし、蒲原地区のことや、蒲原の子供たちの特性等を理解されているのかが少し不安になりました。大きなお金をかけてこの事業が行われると思いますが、「学校を作る」というのはその地区の将来に大きくかわってくると思います。開校時期が遅れてもいいと思うので、委員会等だけで進めるのではなく、「蒲原地区小中一貫校設置準備委員会」のようなものを作って、学校の設計から運営の仕方、地域とのかかわり等を総合的に作り上げることが蒲原地区に必要ではないかと考えます。</p>	<p>令和2年度から地域主導の「蒲原地区学校統合準備委員会」が随時開催され（各小中学校のPTA会長等も委員に含まれています）、目指す子ども像やどのような学習を望むかなどについて協議してきました。今後も、地域のご意見をお聴きしながら進めていきます。</p>
5	<p>【義務教育9年間における小中の連携について】</p> <p>「乗り入れ指導」による教員の負担、小中一貫におけるいじめ問題等の生徒・保護者への配慮は考えていかないといけません。計画や設計図を見て期待していることは間違いありませんのでお願いします。</p>	<p>頂いたご意見を参考に、小中一貫教育を進めていきます。</p>
6	<p>【静岡型施設一体型小中一貫校の教育課程（カリキュラム）について このことについては計画案には記載されていません。】</p> <p>意見のタイトル（項目、訂正箇所等） 静岡型施設一体型小中一貫校の教育課程（カリキュラム）について このことについては計画案には記載されていません。</p> <p>意見の内容 今回は、教育施設課から、地域住民によるワークショップの経過を踏まえた（ということになっている）校舎建設基本計画が提示されました。新しい教育環境の学校施設は、どんな子供たちを育てていくかという教育の目標と、それをどう実現していくかという方法・教育課程が明確になり決定されていくものだと考えます。このことは教育施設課だけではなく、教育委員会のみならず子どもの育成に関わる方々の総力を結集して進めるべき事案です。残念ながら、現在までの進め方は教育総務課と教育施設課の事業になっている様に見えてきます。こども園課や生涯学習推進課などの連携をしっかりと取りながらの計画を立案して欲しいと願います。新たなニーズや視点が出てくるものと期待します。それが市民目線ではないでしょうか。</p>	<p>地域の思い、各学校のこれまでの取組を大切にしながら、学校運営の視点も踏まえ、関係各課と協力して新しい学校の検討を進めていきます。</p>
7	<p>【文部科学省発表の「小学校施設整備指針」及び「中学校施設整備指針」にのっった建設計画を】</p> <p>文部科学省では、平成31年3月に「小学校施設整備指針」及び「中学校施設整備指針」を文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部より発表しています。これは努力目標として出されたものと理解することが妥当で、決して守らなければならないものではないとは思いますが、しかし、指針として出されている以上、これからの子供たちや、社会の変化を考えたとき、こうあることが望ましいとして出されているものと理解できます。</p> <p>そういう視点で見たとき、説明会で出された計画が、果たしてどの程度この指針を受けたものになっているかを検証する必要があると思います。箱としての学校ではなく、地域の教育力を期待しながら、よりフレキシブルに活用できる学校施設になっていくべきだと思います。さらに言えば、学校こそが、地域の教育・福祉・文化（子育てはもちろん）の拠点になるような総合計画が必要であると思います。</p> <p>今一度、この指針とのずれはないかの検討をしていただければと考えます。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にし、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。</p>

【建物平面計画はじめ目標および計画案等についての意見】

1. 「こんな学校で学びたい」、「こんな学校で学ばせたい」と児童数向上につながる魅力的な建物の設計を。そのために公開コンペやプロポーザルコンペの開かれた競争原理による叡智の結集をはかるべき。

蒲原地区で小中一貫校を要望した理由の一つには、少子化での合理化ではなく、より質の高い教育をめざすことであり、その質の高い教育がなりたつための質の高い校舎建築を期待していたことがある。そのために建物は「こんな学校で学びたい」、「こんな学校で学ばせたい」と話題になるほどの情報発信力のある魅力的な建築を追求するべきである。

入札制度による公共建築の問題は日本学術会議でもとりあげられ、質の高い建築への競争原理の導入が提言されている（日本学術会議 法学委員会・経済学委員会・土木工学・建築学委員会合同 知的生産者の公共調達検討分科会提言「公共調達における知的生産者の選定に関わる法整備 一創造的で美しい環境形成のために 会計法・地方自治法の改正を―」2017.9）。競争原理による質の高い建築の事例では学校建築においても4校の学校統合の新校舎建設を行った福岡市立博多小学校の例や、熊本県宇土小学校などが知られる。現在示されている基本計画案をもとに基本設計が進められると当初の地元の要望にある魅力的な学校建築となるかはなはだ不安であり、抜本的な見直しが必要である。

基本計画案策定の過程に開かれた6回のワークショップにおいては参加者によって夢のある建物のデザインの提案がされていた。しかしながら示された基本計画案にはワークショップの検討結果との乖離もみられる。そもそもワークショップ時には、既存校舎を使いながらの「居ながら改築」という前提は示されていなかった。この乖離からもワークショップは単に市民、有識者の参加を得て意見を反映したと言えるのか疑問も提起される。本編p.41にワークショップの提案事項のとりまとめがあるが、整備コンセプトとのつながり、さらには具体的な計画案とのつながりが不明確である。都合のよい点だけをとりあげて住民参加で計画したことにはならず、このつながりについてはワークショップ参加者、関係者はもとより地域住民にも明確な説明が求められる。

ワークショップにおいて描かれた提案の意図を汲み取り、その期待される未来像、コンセプトを具現化するソリューションはもっと考えられる余地があり、広く建築家の叡智を結集した建築デザインを求めべく公開設計コンペかプロポーザルコンペなどの質の高い建築とするための競争原理の導入を考えるべきである。この点についてのお考えをお聞きたい。

2. 小中一貫校で目指す教育目標の蒲原ならではのより具体的な像を

基本計画では「つながる力」と、市の小中一貫教育の目標を述べているが、市レベルでの抽象的記述に終わり、それを蒲原にて具現化した時のより具体的な目標像が述べられていない。蒲原地区の地域特性は背景としての記述が数ページにあるものの、蒲原の地域特性に基づいた、具体的な「つながり」をどのように展開して、子どもたちの「つながる力」の習得に活かすのか、具体的な教育像が見えない。

そのような具体的な教育像があってはじめて建物の利用像を具体的に描くことが可能となり、その利用像に対応した建物の計画・設計の条件に落とし込むことが可能となる。そのような過程を欠いてしまうと、どこでも同じ標準設計の建物になりかねない。

そのため、蒲原の小中一貫校でどんな「つながる力」を身につける人材を育てるのか、それを具体的にどのように行うのか、地域特性を活かした具体的な教育目標像を示してほしい。本編p.40に地域とのつながりの記載があるが、単に紹介にとどまり、具体的に展開する教育の目標像までに咀嚼して方針立てられているとは言い難いので、その点についてさらに具体的な検討と説明をお願いしたい。

3. SDGsおよびエコスクールの具現化した形の提案を

本編のp.29から基本計画の目標の記載があるが、いきなりSDGsから始まる。背景としての地域特性の文脈、当初地元から小中一貫校への要望が出された時の期待、ワークショップで検討された内容からの文脈の上に、SDGsへの貢献が説明されるなら理解できるが、これまでの積み重ねの文脈と切り離されて、SDGsがいきなり基本計画目標となる点はその論理的筋道の理解に混乱を与える。SDGsを決して否定しているわけではなく、前述の1、2で述べた文脈の上に具体的な基本計画目標が立てられ、結果としてSDGsのこういう側面に貢献するようにするという説明ならば理解できるであろう。

しかしp.37のエコスクールまでに記載された目標（コンセプト）がp.52以降に示された具体的な計画提案になぜそうなるのか、その説明がなく、乖離している印象は免れない。例えばパシフィックデザインと言いつながら、光の吹き抜けも小さく、また西側の半分の校舎は中廊下式で暗くなるのは目に見えているので、コンセプトと合致していない。ワークショップ時に紹介されたドイツのエコスクールの事例（『子どもたちが学校をつくるドイツ発・未来の学校』ベーター・ヒューブナー著、木下勇訳、鹿島出版会、2008）のような環境に配慮した建物が20年以上も前に実現しているものであり、小中一貫校に期待された「地域の未来担う拠点」としての建物は、まさに形から子どもたち、および地域の市民に「環境に配慮した未来の建物」と誰にも分かり、誇れるような形の提案が求められる。エコスクールというソフトとハードの環境は文部科学省でかねてより海外の事例に学んだり、検討を重ねてきた蓄積がある。静岡市のエコスクールの見本となるような建物と運営が期待され、その点についてのお考えをお聞きたい。

8. 4. 特別支援を必要とする生徒数の増加の背景をとらえた総合的な「つながり」の教育を

基本計画では背景に特別支援教育を必要とする児童・生徒数の増加が述べられている（p.17）。しかしなぜ増加しているのかという分析や考察もなく、教室を増やすというのでは安易な対症療法的思考であり、根本的教育目標をなさない。さまざまな困難な状況下の子どもがいる我が国の状況について、母子保健段階から切れ目ない子ども中心の支援が必要といわれている（日本学術会議子どもの成育環境分科会提言「我が国の子ども成育環境の改善に向けて―成育空間の課題と提言202―」）。教育、保育、保健、福祉のまさに「つながり」のある総合的な教育施策が求められ、その具体的ビジョンが描かれていないため、この問題に対する具体的な計画提案が見えない。そのために、特別支援を必要とする生徒がなぜ増えているのか、しっかりとした分析と対策を考えることが静岡市での教育政策として重要な点である。しかし、この問題は今日の社会・経済状況が複雑に絡まっている問題であり、学校教育のみで対応できる問題でないことも明らかである。まさに市が方針にかかげる「つながり」の教育が重要であり、そのために関係機関、また地域との連携が重要であり、具体的に当該地域においてどのように「つながり」を築こうとするのか、方針と実施のための計画があって、その下に建物にかかる条件なりを整理して取り組むことが必要とされるであろう。そこまで踏み込んだ特別支援を必要とする生徒への当該地区での教育の具体的展開のお考えをお聞きたい。

5. 地域との「つながり」のより具体的な提案を

蒲原地区は自治会、市民ボランティア活動も活発であり、一部の学校部活動にも地域住民が指導に協力している。部活動については教職員の負担軽減化のために地域クラブへの移行も社会的に議論されているところである。

旧蒲原町時代から交流のある米国・シェルビービル市にはボーイズ&ガールズクラブというさまざまな活動が可能な地域クラブがあり、放課後の子どもの居場所ともなっている。部活動はじめ放課後の子どもの活動には、学童保育も含めて、現在の子どもの外遊びや自然体験や社会体験の減少を鑑みて、質の高い体験の場に地域住民の関与がもっと必要とされる。教育の責任を学校に、子育ての責任を家庭に押し付けるのではなく、地域で子どもを育てることが蒲原らしい教育像として、学校、家庭、地域の「つながり」を強化することが求められる。

そのために校舎の建物の周縁部に「つながり」が生まれる「縁側」的な空間を強化するべきであろう。テラス、またワークショップで提案に共通していた「カフェ」、図書館（またはメディアセンター）、工房、菜園など地域の協力者はじめ地域の人も来やすく、子どもとコミュニケーションがとりやすい空間の工夫が求められる。

防犯や安全性については閉鎖的な管理強化と、開放的な運営による監視（人の目）強化の二つの対立する考え方があがるが、後者の実践による安全性と子どもの自己肯定感や地域への愛着など有意義性が示されている（例えば習志野市の秋津小学校。地域住民と子どものクラブ・サークルが約30）。

また地域とのつながりの教育・子育て・子育ての場としては蒲原東小学校、西小学校の跡地活用として本格的に考えるべきであろう。地域クラブやサークルの拠点として、地域の様々な人たちが子どもとともにスポーツ、文化、創作、栽培その他あらゆる活動を行う拠点として二つの小学校の跡地活用を考え、蒲原ならではの「つながり」を強化した教育構想（マスタープラン）を蒲原まちづくり推進委員会をはじめ関係団体や関心ある住民、専門家とともに描いていくことも必要とされる。この点は本基本計画の枠組み外の事柄であることは重々承知しているが、「つながり」を真に根幹に置くならば、枠外の事柄とも関係をつくるべく視野において準備していくことが、より計画的な成果を産むのであり、そのための地域との対話の機会、コミュニケーションの場を設けることは、決して早すぎることはなく、ぜひともご検討いただきたい。その点についてのお考えなりをお聞きたい。

6. 国際化に対応した教育・体験の場の充実

日本は少子化の流れが止まらず大学全入時代となり、個別入試受験科目が英語のみというところも増加傾向にあり、塾・習い事に重要な発達期の時間・費用をかけるよりも、小さい時から外国人と話す体験を積むことが「習うより慣れる」と言うように、語学習得と国際化対応の人材育成となる。また国際化には人権や平和、そして環境問題など国際的に重視される価値観を共有することが大事となる。それもそういう価値観に触れる人間同士の交流を通して身につくものである。旧蒲原町時代から交流する米国のシェルビービル市とオンラインで子どもたちが交流しようとしても時差の問題からダイレクトに交流できないことから、今、ニュージーランドのクライストチャーチ市のリトルトン(Lyttelton)と交流をはかろうとしている※。その他、多くの国の人とコミュニケーションの体験が得られる場を前述の「縁側」的な場として設けることが求められる。例えばコロナ禍で広まったIT活用でのコミュニケーションが気楽に子どもたちが使えるような場をそなえた、イングリッシュカフェなど地域住民の協力を得て運営できるとよい。

要するに20年後、30年後、または建物の耐用年数を考えた将来の社会を見ずえると、今以上に国際化した姿を描くことができるであろう。この国際化対応も学校の教員のみで行うことよりも地域との連携、まさに「つながり」で地域あげて行うことが得策であり、蒲原地域はその下地がある。そのような長期的視野をもって国際化に対応する条件整理を行った上で建物の設計条件に落とし込んでいくことも必要である。その点についてのお考えをお聞きたい。

※2022年3月16日にLyttelton Primary School（5―13歳）の高学年の生徒と蒲原中学校2年生8名程でZoomにて会話をを行った。リトルトンはクライストチャーチ地震（2011年）の震源地の近くで当時、陸の孤島となった地域であるが住民の活発なボランティア活動で救済、支援、復興を果たした。人口約7000人の地区でクライストチャーチに合併した年も2006年で、斜面地が海に接する地形も類似性があるので、今後交流が促進されることが期待される。

1. 魅力的かつ質の高い教育を可能とする校舎を目指し、地域や学校、関係各課と協力して基本設計を進めていきます。

2. 6. 今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にし、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。

3. 基本計画案におけるSDGsの項目に関しては、静岡型小中一貫校の「静岡市のSDGsの推進」に対する在り方を設定するものです。エコスクールとしての機能、詳細等については、基本設計を進める中で具体的に検討していきます。

4. 今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にし、インクルーシブに配慮した教室づくりを検討していきます。

5. 頂いたご意見を参考に、地域や学校、関係各課と協力して基本設計を進めていきます。

<p>【諸室構成の考え方について、多目的ルーム・オープンスペース・会議室の配置に関する意見】      少人数授業の活用や教室不足時に転用可能な教室として多目的ルームが3室、階段の部分にオープンスペースが配置されているが、以下の3点の理由でスペースの不足や小中一貫ならではの交流の機会創出という観点から多目的室を増やした計画に変更して欲しい。      具体的には2階の小4小5の間に1室、小5小6の間に1室（1階も同様に計2室）、3階部分の屋上部分に小中交流スペースを拡張していただきたい。また、中学校の教室の並びの会議室という名称は、他の地域交流室や体育館スペースでも代替可能であるし、夜間の会合などを想定しても1階部分のスペースを活用したほうが安全上望ましく感じるので、生徒を主眼に置いた諸室名称に変更した方が良いのではないかと。</p> <p>理由1      児童数は減少傾向ではあるがその先のことについては未知の部分である。市の「しずおか学」や蒲原の地域学習を受けた子供達が成人になり地域に戻ってきた場合に期待し、また周辺施設の開発や様々な官民一体の取り組みで移住者を増やそうというタイミングでもあることは地域の今後の在り方にも大きく影響する。      また35人学級に40年ぶりに基準が改定され、少子化の傾向や教育の在り方が今後議論が進むことは容易に予想され、これ以上国が定める学級編成人数が増えるとは考え難い。私立や県立の中高一貫校でも段階別学習が実施されている。      今現在の学習の安心感、将来的な子育て人口維持の両方を勘案して教室数は導線が離れない形で多目的利用可能な教室が確保されて欲しい。</p> <p>理由2      蒲原西小学校のわくわく発表会など、各小学校では地域学習発表の機会が児童にとって素晴らしい成長の機会となっている。学年ごと、学校ごとの共通テーマのもと、少人数のグループで一人一人が個性を発揮しひのびと調べ学習やプレゼンテーションを行う場であったことが成功の要因の一つと考えられる。      また、GIGAスクール構想の児童生徒にとってのメリットとしては個別の端末によるもの以外にも、「つながる」ことにもあると考えている。ICTスペースのみではなく各教室においてもICTを活用した授業が展開されると期待している。限られた授業時間の中で、できるだけ多くの児童生徒が意見をプレゼンテーションする機会が確保されなければICTを活用しても受け身になってしまい「双方向」の良さが損なわれてしまう。      これまで各学校で培ってきた学習発表会の在り方を損なうことなく、今後児童生徒に期待されるプレゼンテーション能力やインクルーシブな学習機会への参加のためにも、多目的利用可能な教室は余裕を持って計画されて欲しい。      これまでの空き教室の利用形態や、今後の学習のあり方のためにも、学校全体・学年全体で取り組む中でも、グループワークの機会が最大限子供の成長につながるような教室利用を念頭にお願いしたい。</p> <p>理由3      3階小中交流スペースの拡張について。      自発的に小学生と中学生が交流の機会を創出して欲しいと願っている。      具体的にはダンスや演劇といった、静岡市が取り組む「まち劇場」のような取り組みが児童生徒主体で行われると良いと思う。屋上の屋根がある部分にステージのようなものがあれば、部活動ではカバーできない芸術表現活動の後押しにならないだろうか。多目的室が適正に配置されるとともに集会スペースが確保されると良いと考える。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。</p>
<p>【3-5 諸室構成の考え方 ◆諸室の構成 ○普通教室の検討（小学校・中学校共通）】</p> <p>意見のタイトル（項目、訂正箇所等）      3-5 諸室構成の考え方 ◆諸室の構成 ○普通教室の検討（小学校・中学校共通）</p> <p>意見の内容      p45には「○普通教室の検討（小学校・中学校共通）      ・1教室 35人学級とした場合、新JIS規格（650×450）の机が机間巡視の寸法を確保して、5×7列に配置できるスペースを基本とします。      ・教室の規模は68㎡を標準とし、奥行・間口寸法については、今後の設計段階で合理的なスパンや柱寸法等により再検討を行うこととします。」とありますが      p43・44の表には「65」の数字が表示されています。</p> <p>狭い教室は、使い勝手がよくないだけでなく、安全にも問題が出てくるのではないかと心配します。十分な広さを確保してください。</p> <p>1階にある小学校1～3年生の教室には、p45の図とは異なり外への扉を設置して避難通路を兼ねるようにしてください。</p> <p>参考資料      p54票の下に「※計画目標は1コマ65㎡、計画案は1コマ68㎡で作成しています。」とありますが、素人には意味が分かりません。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、新しい学校にふさわしい施設整備を検討していきます。</p> <p>「※計画目標は1コマ65㎡、計画案は1コマ68㎡で作成しています。」という表記については、「必要な広さとして設定した1教室あたりの面積65㎡（計画目標）に対し、本計画では68㎡（計画案）で検討しています。」に修正いたします。</p>
<p>11 【平面計画について】      新しい校舎に建て替えられるようなので、とてもうらやましいです。他の小学校も建て替えてください。</p>	<p>小・中学校の改修・建替えに関しては、校舎の劣化状況や経過年数等により随時検討していきます。</p>
<p>12 【地域交流室について】      地域交流室をつくって地域の方と交流を図ることはいいと思いますが、知らない人が入って来ることはないのでしょうか。子どもたちの安全は守られるのでしょうか。</p>	<p>学校敷地内の防犯対策に関しては、利用方法や管理区分などを考慮し、地域と協力しながら検討を進めていきます。</p>
<p>13 【蒲原地区および蒲原地区の子供たちの特性をふまえた新校舎建築における教室の形状】      私は、3年前まで、静岡市教職公務員をしていました。蒲原地区には蒲原東小に2度合計10年勤務し、蒲原西小には、退職前の5年間勤め、その間研修主任をやらせていただきました。3校の研修主任や教員・管理職とも話す機会が多くありました。その際に話題になった子供たちの特性は「素直である」「真面目である」ということと、「恥ずかしがり屋で表出すること（表現）が苦手である」という事でした。私自身も蒲原で生まれ育ったので、このことはとても納得できます。      現在の学習指導要領においても、「アウトプット型」の学習が推奨されています。      説明会で出された教室に関することは「広いこと」「ICTに対応していること」「明るいこと」「黒板ではないこと」だったように感じます。そうすると、最も課題とされている「表現の困難さ」は、教師の働きかけ方と学習する内容に期待することになります。      しかし、人間は環境の生き物です。環境を整えれば教師の工夫がなくても、子供は成長すると考えます。また、教師の力量については、私としては現在の教員の質の低下の様子から期待できないと感じています。（すべての教師ではありませんが、管理職も含め、確実に教師の質（人間力）は低下していると思っています。）      そこで、既存の「小・中学校はこうでなければいけない」という固定概念を取り払った教室を提案してほしいと思います。      例えば、扇形状で、中心角側が低くなっている「コロシウム型」にすることで、子供の視線は中心角側に向きます。また、段差をつけてあるので、見えないこともありません。発表者は中心角側で話をするようになります。丁度大学等で見られるような講義室の形に近いと思います。      これはあくまで一例ですが、「教室は四角い」という固定概念を取り払えばいろいろな形状の教室が考えられると思います。その時、それぞれのメリットとデメリットを洗い出す必要があると思いますが、      建物を作るだけでなく、そこには子供たちに対するいろいろな効果を期待して、小中一貫校のフラッグシップになるようなコンセプトの校舎ができることを期待しています。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。</p>

14	<p>【小中一貫教育の特性とメリットを生かした教室配置について】  小中一貫校を作るということは、児童生徒数が減ったからという単に合理性を求めたからではなく、教育効果としてメリットがあると見込まれるからだと思います。実際、現行の学校教育法における義務教育の6・3制は社会が目まぐるしく進展していく中であまり意味のない枠組みのように感じます。すでに、小学校高学年（特に6年生）を教科担任制にする提案と動きがあります。静岡県でも積極的に導入していくという報道もありました。（実際のところどれくらいが取り組んでいるのかはわかりませんが。）  そんな中で、今回の説明会での教室配置についての提案は「小学生のスペース」「中学生のスペース」「落ち着いた学習できるように中学生は別塔（？）」のような説明がされました。これは、すでに小学校と中学校をただ単に「一つの箱の中に入れる」という発想のような気がします。小・中学生が一緒に生活することは小学校1年生から6年生、中学1年生から3年生の二部構成ということではなく、義務教育学校1年生から9年生という連続性が大切だと思います。今まで6年生がやっていたことを5年生がやってもいいですし中学3年生がやってもいいと思います。一番教育効果が見込まれる学年でいろいろな教育活動を実施していくことを検討していくが重要だと思います。  子供たちが、よりよく育つように、時期や内容を検討して効果的な教育活動をしていくための新しい枠組みが小中一貫教育だと考えます。  静岡市ではすでにいくつかの小中一貫校ができています。その運営の中から、小中一貫教育のメリットが洗い出され、各分野の指導におけるノウハウが検討されていることと思います。そのノウハウを生かせるような教室配置が教育効果を上げると思います。  具体的には、私の考えですが、現代の子供たちの成長から考えると（1年間という時間の期限で考えるならば）「小学校1・2年生」、「小学校3・4・5年生」、「小学校6年生・中学校1・2年生」、「中学校3年生」の4つのブロックに分ける、または最後の2つを一つにして3ブロックに分ける、ことが適当かなと思います。  また、インクルーシブ教育の観点から、特別支援学級の配置も検討が必要だと思います。別枠のように別エリアにするのではなく、普段から子供とおし顔をあえるように、工夫した配置が必要だと思います。また、普通学級にいる特別支援対象児についてもすぐにくげだせ、安全が確保できるような教室やスペースの配置が望ましいと考えます。特別支援対象児や特別支援学級の子供たちがいることによって、その周りの子供たちもそして本人も育ちます。まあ、それも直接かかわる教師の力量にもよりますが、以上小中一貫教育の意義やメリットを生かしやすい教室配置の再検討を要望します。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。</p>
15	<p>【4-1 基本計画案の方針（P.52） ◆配置計画 テラス（地域交流室北側）が16m程しかない。1階校舎のグランド側全てを、長さ100m、幅15mのテラスとし、緑化、小径、ベンチを配する。】  ・WSによるコンセプトにもある「行きたくなる子ども主体の学校」をどう醸し出すか!!  ・平地に建つ、無機質な四角い校舎だけでは、「地域生活」・「学校生活」に気持ちを切り替え、登校するときの「心の癒し」を得ることはできない。  ・P41の施設計画の目標でも「校舎周辺部等を舗装、緑化する」（前提条件）を掲げ、WSでも「グランドに面したテラスを設置」の熱い思いが示されていた。  ・2,3階に富士山の見えるテラスが部分的に配置されているが、1階部分のテラスが地域交流室北側の5m×16m程度では前述の考え方を満たすことは到底できないと考える。  ・校舎周辺（特にグランド側）を幅15～20mほどの緑地帯とし、プロムナード、階段状テラス、ベンチを配した、交流、癒しの空間、各種活動観戦ができる、学校環境の構築をお願いします。  ・望むならば、校舎建設地盤を2mほど嵩上し（津波浸水対策）、校舎からグランドにかけスロープをつけた緑地テラスをデザインしてほしい。（丘に建つ校舎）  別紙参照</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。</p>
16	<p>【職員室について】  職員室は、グラウンドも見える位置がいいのではないかなと思います。子どもが遊んでいる姿を見ることができるといのはとても大切なことだし、それは子どもたちにとっても同じだと思います。もちろん他の部屋との兼ね合いもありますが、特に小学生もいる中、元気な姿を見ることができるとは職員にとってのモチベーションになるのではないのでしょうか。  また、職員が会議をする場が職員交流スペースしか見受けられないのですが職員室にスペースを設けたり、2・3階の部屋で行うのでしょうか。小中が入り交じり、研修やカウンセラーやソーシャルワーカーとの話合い、地域・保護者の方との話合いなど、内外と連携するために会議室的な部屋が必要だと思います。もちろん2・3階もいいですが、移動が大変そうだなと思いました。また、教育実習生が待機する部屋としても使えるので、職員室に近い、何人かが集まれる部屋があればもっといいと思います。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、新しい学校にふさわしい施設整備を検討していきます。</p>
17	<p>【3-2 義務教育9年間における小中の連携 〈教職員の連携〉に関連して、教職員の定数への配慮を求めます】  意見のタイトル（項目、訂正箇所等）  3-2 義務教育9年間における小中の連携 〈教職員の連携〉  意見の内容  小中学校教員の交流・合同研修を推進するために職員室を同一空間にすることは、交流を自然発生させます。空間や情報環境へも工夫されることに賛成します。乗り入れ授業を進めるとありますが、互いに得意な所を学び合う機会になりますから意図的な研修を期待します。心配なのは、教職員の定数の問題です。新しい取り組みですから加配の可能性こそあれ、乗り入れ授業による効率化と称して授業時間の準準化を図り、教員の減員につながるようなことはしないで欲しい。</p>	<p>地域の実情を踏まえて、適正な教員配置を行っていきます。</p>
18	<p>【給食について】  蒲原町の頃から、自校式である学校給食の美味しさは評判であり、地元の自慢でもあった。事実、全国学校給食甲子園の第4回大会に蒲原東小学校の給食が選ばれており、自分も娘も、この美味しい給食のお陰で楽しい小学校生活を送ることができた。食育という意味においても、好き嫌いがほとんど無く育ててもらい、今でも感謝している。  しかし、合併後の静岡市においては、経済性や衛生的な理由などから、将来センター方式に統一していく方針とのこと。  今回の学校統合を機に、自校式からセンター方式に改められてしまうのではないかと。  蒲原の住民としては、自校式の温かく美味しい給食は有り難いが、静岡市としては自校式を続けていくことに何らメリットを感じてはいないのではないかと。</p>	<p>学校給食のあり方については、地元要望等を受けとめつつ、総合的に検討を進めていきます。</p>
19	<p>【トイレについて】  中学生が1フロアになっていてトイレも一ヶ所になっている。私たちのころは、中学生になると突然上下関係が出てきて先輩が怖くなったりしました。今の時代はどうかわかりませんが、上級生がトイレに入っているときは下級生は入りづらいのではないかと。便器の個数よりトイレの個数の方が重要な気がします。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、蒲原地区小中一貫教育における学校教育目標を見据えた学校施設の整備を検討していきます。</p>
20	<p>【平面計画の概要（案）について】  現状案ですと、3階が屋根となりそれ以上の屋上は津波緊急避難場所と考えられているのでしょうか？既存学校教室棟は3階建てで屋上があり緊急時に避難ができるようになってはいます。建物自体は強固なので、周辺住民も避難をされるようになるかと思いますが。その為に、備蓄倉庫の設備等も必要なのかと思いますが。想定内で津波がくるとは限りませんのでより高い場所があれば安心かと思いますが。</p>	<p>津波避難場所としての機能等は、今後、基本設計を進める中で、地域防災の所管課と調整しながら決定していきます。</p>
21	<p>【地域交流・防災の観点について】  生徒及び先生方が活動していく場所が学校ということは解っていますが、現蒲原中は津波避難場所でもあります。その中で地域の方々も実際避難される場合が万が一会った時、足の不十分な方・車椅子の方などに対して階段で上層階へ上がれというのでしょうか？エレベーターは震災の時は停電でなくても停止します。今回の計画案に地域防災・避難の観点も余りにも欠けている気がします。  出来たら中央入口に「出来るだけなら螺旋状のスロープの建設」を考えて頂きたい。万が一学校生活でケガをして足の支障が出た場合や、特別支援クラスの生徒さんの通路・同線にも活用できます。  以上検討のほどよろしくお願いたします。</p>	<p>地域防災・避難の観点については、今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、新しい学校にふさわしい施設整備を検討していきます。</p>
22	<p>【「誰一人と乗り残さないインクルーシブ教育を実現する校舎」の実現を促す校舎について】  説明会資料では4ページに「新しい学び舎が目指す理念」として、2番目に「誰一人取り残さないインクルーシブ教育を実現する校舎」とあります。具体的には、説明会で出された新校舎の配置図等にどのように、反映されているのか疑問に思います。  「誰一人」とはだれを指しているのでしょうか？その文面にはインクルーシブ教育という言葉が使われていますから、発達障害の子供たちを指しているのは分かります。しかし「誰一人」という言葉には、ほかの子供たちも含まれていると思います。例えば「不登校」の子供たちです。この子供たちについてはどのように考えているのでしょうか？  彼らは、いろいろな原因がもとで学校に通えなくなっています。その子たちに校舎を工夫することで、登校しようとする気持ちを促すことができているのでしょうか？いろいろなケースがありますから、校舎を工夫したからと言って登校できるとは限りません。そこは教員の力となるかもしれませんが。しかし、校舎に多少の工夫をすることで、その意識がその子や家庭に伝わり、登校刺激になるかもしれません。  また、それが新校舎に実現不可能であるならば、現蒲原西小や東小の校舎の廃校後の使い道として一考するということも手かもしれません。  以上、理念として掲げた以上、そのことを実現していくための工夫や手立てを新校舎には施してほしいと考えます。</p>	<p>学校運営の視点や専門家の意見も踏まえながら、可変性を考慮した諸室を検討していきます。</p>

23	<p>【インクルーシブ教育】 小中一貫に伴う特別支援学級も含めた誰も取り残さないインクルーシブ教育に配慮とあります。夕雲インクルーシブ遊具を導入するなどして障害の有無などに関わらずあらゆる子供たちが一緒に遊べるようにしていただければと思います。</p>	<p>学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
24	<p>【特別支援教室の設置位置について】 平面計画図を見ると、普通学級は「日当たりの良い南側に位置した普通教室」と記載してあります。一方、特別支援学級は「北側」です。今後、未来を生きる子供たちは、お互いの多様性を認め合える人材育成が基礎基本になってくると思います。普通学級と特別支援学級と分けることは、絶対に必要と思います。しかし、全く環境的に分けるのは間違っていると思います。 特別支援教室を普通学級と同じように、南側に教室を持つてくることは不可能でしょうか？ 身体に支援が必要な学級は、昇降口の近くに設置することで内外の出入りをスムーズにして、誰もが利用する昇降口で身体に支援が必要な子も必要でない子も交流できます。 発達障害などで支援が必要な学級は、普通学級の前の廊下や階段を使う事は不都合なんでしょうか？ 「自分と同じぐらいの年頃で接し方に支援が必要で、生き辛さを感じている子が自分の身近にいる」と普通学級にいる子が感じるのはいけませんか？ 市役所の皆さまもご存知だとは思いますが、子供たちは素直で敏感です。 特別支援教室が「南側」ではなく「北側」にあり、しかも「特別支援教室1」と「特別支援教室2」が固まって設置されている。それだけで、子供は線引きしてしまいます。 蒲原はこれから未来に向けて50年間は、この校舎を使っていくと思います。子供たちが未来を生きやすくするためにも市役所の皆さま、どうか、子供達がお互いを認め合えるような教室設置を考えて下さい。よろしくお願い致します。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
25	<p>【特別支援学級について】 校舎内の静かな場所に設置してほしい。周りに図書館などクールダウンできるスペースがあるとよい。個別学習の際に使用できるよう、多目的室（特支学年室）も近くにほしい。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
26	<p>【蒲原小中一貫校校舎建設について】 娘が蒲原東小の情緒支援学級に通っています。小中一貫校になって情緒支援学級の設置を必ずお願いします。また新校舎クラスのレイアウトですが普通級ばかり日当たりの良い場所で不公平だと思います。特別支援のクラスは日陰になってしまいますので、普通級と平等に日当たりの良い教室のレイアウト検討をお願いします。情緒支援級設置と普通級に対し支援級も平等に検討をお願いします。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
27	<p>【4 基本計画の概要について】 特別支援学級には、しっかりドアを付けてほしい。集中できる環境を作りたい。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
28	<p>【特別支援学級設備について】 窓は全てすりガラスにしたい。外の様子や廊下の様子が気になってしまい授業に集中できないため。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
29	<p>【4 基本計画の概要について】 特別支援学級には、個別に学習ができるように教室内を仕切れる工夫がほしいです。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
30	<p>【特別支援学級設備について】 生活スペースと学習スペースが区切れるようにしたい。教室の一角に棚などで区切られたマット（畳）スペースがあると着替え、遊び、クールダウンに便利。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
31	<p>【4 基本計画の概要について】 特別支援学級の隣には、クールダウンができる部屋や図書館を配置してほしいです。また、体を動かせる活動室も他学年と同じようにあるといいです。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した施設整備を検討していきます。</p>
32	<p>【中学校の学級について】 蒲原東小学校で娘が自閉、情緒支援学級に通っています。先日小中一貫校の計画案を頂き拝見しました。その際、蒲原中学校には自閉情緒クラスがないと聞きました。今、娘は3年生で、色々な先生方に支援して頂きとても有意義に生活しています。これは何より、多人数では緊張してしまう娘の特徴を先生方が十分に理解し、娘のペースに合わせて支援して頂いています。とてもありがたく感謝しています。娘にはなるべく、地域の皆と関わりながら地元で色々学んで欲しいと考えています。そのため、蒲原中学校に是非通いたいです。大変だというのは重々承知ですが、蒲原中学校にも、自閉情緒学級を作って頂きたいです。また今、自閉情緒学級の一番年上の子が令和6年に中学一年生になります。令和8年の小中一貫スタート前の令和6年からクラスを作って頂きたいです。大変だとは思いますが、ぜひとも、今一度お願いしたいです。よろしくお願い致します。 また、先日頂いた資料の「平面計画の概要」で、支援級クラスは日当たりの悪い場所に計画されています。支援クラスもぜひ、日当たりの良い場所を作って下さい。また「普通教室」と記載もありますが、どこか違和感を覚えます。私達はこういった表現に非常に敏感になり、ショックを受けます。今の教育現場でもこういった表現はしないと思います。通常級に通う子も支援級に通う子も、みんな宝物です。皆がその子に合った教育を地元で受けられる様にして頂きたいです。要求ばかりで申し訳ありません。でも、今、蒲原東小学校で素敵な先生達に囲まれて娘は毎日成長しています。これからも、蒲原という地元で娘も親の私達も成長していきたいです。蒲原中学校にも自閉情緒学級の設置を切に願います。本当に心からよろしくお願い致します。</p>	<p>特別支援学級の開設については、特別支援を必要とする児童の数を把握し、ニーズに応じて開設を検討していきます。表記の仕方については、「普通教室」および「特別支援教室」を「普通教室（特別支援学級、通常学級）」に修正いたします。</p>
33	<p>【自情級設置について】 自情級に在籍しています。当初は通常級にいましたが、日々起きるトラブルに親子とも疲弊してしまい、このままでは共倒れになると思い籍を移しました。幸い自情級に移ってからは本人も心穏やかに過ごせる時間が増え、また先生たちの児童一人一人に合わせたご指導のおかげで少しずつではありますが成長を感じている毎日です。何より、子供自身が楽しく学校へ通える様になったことが一番嬉しく思います。</p> <p>現在蒲原中には自情級がなく、由比中へ行くしか手段がありません。折角インクルーシブで交流してきた通常級の子達との関係はリセットされ、ただでさえ小学校から中学校という大きな環境の変化の中で、見知った顔もないという厳しい状況となります。</p> <p>かと言って蒲原中の通常級へという道は更に過酷なものです。現在自情級に在籍する児童たちは、障害の度合いも様々で傍目には障害とわからない子もいます。ですが、共通して言えるのは他者とのコミュニケーション能力の低さです。いつかこの子供たちが社会に出て自立し周りと共存していくためには小学校、中学校での時間はとても大切な物です。第一に学校は楽しいところ、安心して過ごせるところだと考える事が大切です。</p> <p>ですのでその場を中学校に何とか設けていただきたく思います。また、出来ることなら、現在いる児童が中学入学する令和六年度から蒲原中に自情級を設置していただきたいです。よろしくお願い致します。</p>	<p>特別支援学級の開設については、特別支援を必要とする児童の数を把握し、ニーズに応じて開設を検討していきます。</p>

<p>34</p> <p>【特別支援教室(学級)について】 現在、蒲原東小の自閉情緒クラス(支援学級)に子供がお世話になっております。このクラスの子は小学校卒業後、由比中学校の支援学級か蒲原中学校の通常学級に入るか、どうするのか選択を迫られます。</p> <p>頂いた案を拝見しますと小中とも「特支1・特支2」となっており、知的クラスと自閉情緒クラスの両方があるか不明なのですが、両クラスを設置して頂けるのでしょうか？もし自閉情緒クラスを設置して頂けるなら、建設中に中学生になる子供たちが由比中から蒲原中へ転校しなくてもよいように配慮して頂けると幸いです。</p> <p>誰一人取り残さないインクルーシブ教育を実現できるよう、ご検討宜しく願いいたします。</p>	<p>特別支援学級の開設については、特別支援を必要とする児童の数を把握し、ニーズに応じて開設を検討していきます。</p>
<p>35</p> <p>【平面計画(案)の概要について】 現在、息子が蒲原東小学校の情緒級4年に在籍しています。障害名は自閉スペクトラム症です。</p> <p>平面計画案への意見です。p22.3階の図案で特別支援学級を2部屋計画して下さっていますが、北側への配置ではなく通常級と同じ並びで南側への設置を望みます。</p> <p>教室内の設備については、発達障害による感覚過敏があるため、音の影響等を受けやすい事、また周りの動きが過剰に気になり集中力を持続する事が困難なため、個人間の仕切り(カーテン)等の設置をお願いしたいです。</p> <p>また、通常の学校生活の中で感情のコントロールが効かなくなった場合には、自分で心を落ち着けクールダウンをする時間が必要となる事があります。ですので、そのための困いのある落ち着けるスペースが設置されると心強いです。</p> <p>現在、蒲原中学校には知的級のみで情緒級が無いため、蒲原東小学校情緒級の卒業生は由比中学の情緒級に進学しています。息子が中学2年に進級する際に蒲中が小中一貫校になりますが、このままでは中学1年を由比中の情緒級、翌年には蒲原中学校に転校という選択になる事も考えられます。しかし障害の特性からも、環境の変化に弱く順応するのに時間がかかり本人の負担になる事を考えると、1年での転校は現実的では無いとも思えます。現時点で東小学校の情緒級には5年生・4年生・3年生・2年生の児童がいます。現5年生が進学する令和6年度の時点で、蒲原中学校に情緒級を新設して下されば、中途での転校等に悩む事なく地元の学校を選択する事ができ、何よりも小学校からの仲間と一緒に落ち着いた環境で中学校生活を始める事ができます。この事からも、令和6年度の情緒級の新設を強く望みます。</p>	<p>特別支援学級の開設については、特別支援を必要とする児童の数を把握し、ニーズに応じて開設を検討していきます。教室配置等については、今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、インクルーシブに配慮した検討を進めていきます。</p>
<p>36</p> <p>【運動場・体育館について】 学校全体の人数に対しての運動施設が今までの半分ということになるが、カリキュラム上は大丈夫なのか。また屋外にバスケットコートとバレーコートとなっている必要があるのか。バスケットはストリートがあるのであってもいいが、バレーボールに関しては屋内スポーツなので必要ないと思う。その代わりに、体育館をもう一つ作るとか、2階建ての体育館にするとか、もう少し運動施設の充実をはかってほしい。</p>	<p>今後、基本設計を進める中で、学校運営の視点や必要経費等を踏まえ、頂いたご意見を参考にして、小中一貫教育にふさわしい施設整備を検討していきます。</p>
<p>37</p> <p>【グラウンドについて】 子供の部活動で蒲原中のグラウンドをよく利用しています。グラウンドと駐車場が広くてとても使いやすいので、このグラウンドと駐車場を大切にしてほしいです。</p>	<p>頂いたご意見は、今後、事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>38</p> <p>【本計画の「前提条件」について、及び基本コンセプトについて】 本計画は「学校施設の建設」という施設整備にかかわるものであるが、ユーザーである児童生徒の保護者にとっては学校生活全体に関わるものである。具体的には、 1.通学方法、距離、費用 2.放課後の児童預かり 3.学校給食のあり方</p> <p>1については、前提条件として「スクールバスのロータリーを確保する」という、バスを運行するのであれば常識的に安全確保のため当然であることをわざわざ明記したに過ぎず、「児童生徒の保護者、地域の子供会などの団体と連携をし安心安全な通学手段を確保する」に変更すべきである。</p> <p>2については放課後児童が過ごす場所が結果的に計画外になっており、今後のスケジュールが示されていない。現状では「それ無くしては児童の放課後の安心安全な時間の過ごし方が困難な家庭がある」ために各学校で運営されているものである。「放課後児童預かりに関わる事案において施設建設のみならず運営のあり方について、市、学校、地域、保護者、協力団体と連携をはかる」などの表現で前提条件に明記されていないことは、単に施設整備のみを担当する「教育施設課」の案件として蒲原地区小中一貫計画を扱ったことによる”不備”ではないか。</p> <p>3、給食については、これまで各校において蒲原地区の特色である一次産業や食品加工の産学一体となった後押しで食を通じた教育の促進を図ってきた。地区からの要望や期待も大きかったと把握しているが、残念ながら前提条件には給食施設の更新は含まれず、また基本コンセプトにも食育に関するものが含まれていない。地域の要望と本計画のコンセプトのずれが最も大きく現れている部分である。</p> <p>また、給食調理員は市の契約職員であると同時に、地域の住民である。暑さ対策など、設備面の改善が現時点で含まれていない点や、雇用についても人員計画などが伴っていないことは遺憾である。</p> <p>以上の3点、全てにおいて、「学校施設」の仕様決定のプロセスで、今後のスケジュールや方針の説明及び当事者への働きかけがあって然るべきであった。</p> <p>現在は基本設計を終え、今後仕様を決めていくものであるが、施設本体と同時に、交通分野・放課後児童預かり・給食についてはワーキンググループを作るなどして住民の意見を正しく反映した計画にブラッシュアップしていただきたい。その際には段階的に期限を設けかつ全体のスケジュールを明示しなければ、保護者の積極的な参加が可能な環境や、安心は担保できないと心得ていただきたい。</p> <p>地域とともにある学校をうたうのであれば、行政側の業務範囲や街づくりの視点だけではなく、学校に付帯する機能や子育て支援の視点からの計画も欠かさずに計画を策定していただきたい。</p> <p>本計画において、交通分野・放課後児童預かり・給食の3点については施設建設のみを優先し、市民のニーズがあるにもかかわらず、計画に反映されていない重大な欠点であると捉えている。この3点について、どのような現状認識であり今後の計画をどう進めていくか具体的な説明が欲しい。</p>	<p>1、地域の皆様のご要望を伺いながら、子どもたちが安心して通学できる手段の確保に向けて、検討を進めていきます。ご指摘いただいた表記については、「保護者や地域と連携し、安心安全な通学手段を確保する」へ修正いたします。</p> <p>2、関係課と密に連携し、頂いたご意見も参考にしながら、新しい学校にふさわしい運営方法を検討していきます。</p> <p>3、学校給食のあり方については、地元要望等を受けとめつつ、総合的に検討を進めていきます。</p>
<p>39</p> <p>【通学手段について】 蒲原の西側に住む住民にとって、遠く東寄りな位置に一貫校を建設するのは、小学一年生の立場に立てば、通学の負担はあまりに大きい。スクールバスを通学手段とする事で対策とする想定だが、具体的な運用や費用負担等については言及されておらず、課題のままの状態に強い不安を感じる。この結論如何によって、遠距離の通学に対するリスクが顕在化し、一貫校とする前提すら覆りかねない。</p> <p>また(本当はいけない事であるが)雨天時に限らず、保護者による自動車通学が現状かなり見られるため、バスが運行していても、保護者から使い勝手が悪いと思われ、想定よりバスが使われない可能性もあり得る。これはバスの運営費用負担や、児童の乗車する・しないといった管理上の問題にも直結する。(児童が乗車したかどうかまで管理するのだろうか。乗り遅れたらどうなるのか。登校時間は同じでも下校時間は学年でバラバラだが大丈夫か。そもそも都合よく受託してくれる業者などいるのか。心配は尽きない)</p> <p>バスの運用については早急に具体的な検討に入る必要があるものの、この計画案の段階では課題のままである。新しい取り組みだからといって、あまりに「スクールバス」というものを都合よく解釈しすぎてはいないだろうか。</p>	<p>地域の皆様のご要望を伺いながら、子どもたちが安心安全に通学できる手段の確保に向けて、検討を進めていきます。</p>

40	<p>【駐車スペースについて】          駐車スペースについて。          現状、中学校の教職員の多くは自動車通勤だが、小学校と一貫校化すると、小学校教職員分の駐車スペースも必要になってくる。          (教員だけではなく、事務員や調理員などの職員の分も含む)          これに加え、スクールバスを運行させるのなら、バスの乗り入れるスペースも必要。          更に、敷地内に児童クラブ棟を建てるのであれば、児童クラブの職員だけではなく、児童クラブの利用者（お迎えの保護者の車）の分も、駐車スペースが必要になる。          当然ながら、来客用の駐車スペースも、何台分かは確保しなければならない。          一体これだけのスペースを確保できるのか。自動車は何台置くことができるのか、具体的に想定しているのか。</p>	<p>学校敷地内の駐車スペースについては、今後、基本設計で決定する校舎の配置等を踏まえながら、学校敷地を有効に利用するよう検討していきます。</p>
41	<p>【4 基本計画の概要について (2) 5つの整備コンセプト に触れてほしい「幼児教育との連携」】</p> <p>意見のタイトル(項目、訂正箇所等)          4 基本計画の概要について          (2) 5つの整備コンセプト 幼児教育との連携</p> <p>意見の内容          蒲原西小学校が10年以上前に取り組み始め、県内のパイオニアとして研究を進めてきている「幼児教育と小学校教育との連携(具体的には、こども園によるアプローチカリキュラム、東西各小学校によるスタートカリキュラム)」は蒲原の教育の強みだと考えます。これは子育て世代にとっては大変魅力に映るものだと思います。          しかし、本計画にはほとんど触れることなく進められているようで残念でなりません。静岡市教育委員会は、管轄の小中学校のみを対象にして事業を進めてきたようです。子どもの育ちや子育ての観点からすると、幼児教育との連携も視野に入れた一貫校を構想する発想が大切で取り入れては如何でしょうか。こども園やこども園課、幼児をお持ちの保護者などからの意見も(ワークショップなどで)確実に生かされているのでしょうか？          基本計画p39の「蒲原地区静岡型小中一貫教育構想図」には、図の下部に「幼児教育」がきちんと位置付けられています。          また、文科省では、中央教育審議会 初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が3月31日に「審議経過報告」を公表しています。これらのことから、蒲原の強みをさらに推し進める絶好の機会だと思いませんか？</p> <p>幼児教育との連携を具体化できる構想を示して欲しいと考えます。          例1 老朽化が激しい西部こども園を閉鎖して敷地内委にこども園を新設する          例2 蒲原西部・東部こども園を統合して敷地内に新設し、静岡の幼小中一貫校を目玉にして全国にアピールする          ※ 参考資料の「審議会経過報告」には、4目指す方向性の中に「本(幼保小の架け橋)プログラムについては、今後三日年程度を念頭に集中推進する。モデル地域の取組と並行して、(中略)好事例を分析し、幼保小の関係者に展開する。」とあります。教育内容についても全国にアピールするチャンスでもあります。          ※ 基本計画案p6の「計画の対象」には「認定こども園、幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校を中心として、子ども達を取り巻くかてい、貴息社会、これらを支える行政を含めた教育に関わる取組を対象とします」と明記されています。          こうした学校を新設することを公表すれば、新たに蒲原に住みたいと願う人も出てくるのではないかと考え、まちづくり、人口減対策にも繋がります。教育委員会内に留まること無く大きな構想を願います。          そうした「まちづくりの機会」であると捉えて、静岡市で初めてであり、数十年に一度の今回の事業を進めてほしいと願います。</p> <p>参考資料          ・蒲原中学校・東小学校・西小学校 静岡型集中一貫教育 構想図          ・中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会          「審議経過報告」より とりわけ 2 背景、3 課題、4 目指す方向性</p>	<p>蒲原西部、東部のこども園のあり方も含め、本市の市立こども園の統廃合等については「静岡市市立こども園の配置適正化方針」に基づいて進めており、小中学校との連携のあり方についても検討していきます。</p>
42	<p>【4-1 基本計画案の方針 ◆配置計画の図に掲載されている 「児童クラブ」について】</p> <p>意見のタイトル(項目、訂正箇所等)          4-1 基本計画案の方針 ◆配置計画 児童クラブ</p> <p>意見の内容          p52の配置計画図には「児童クラブ」が表示されていますが、計画の本文中には明示されていません。          校舎外に新設されることを望みます。保護者の送迎の点から駐車場に近く、職員室から遠くない場所(原案通り)がよいと思います。担当である子ども未来局とは連携していることと思いますが、後になって追加の工事などしなくて済むように、十分な物を作って欲しいと思います。</p>	<p>現在それぞれの学校内にある児童クラブは、小学校の統合移設に合わせて廃止し、新しい小学校の敷地内に新クラブとして設置する予定です。なお、基本計画案には、児童クラブを建設する旨を追記します。</p>
43	<p>【静岡市の新しい教育の方向性を広く示す機会にしませんか】</p> <p>意見のタイトル(項目、訂正箇所等)          静岡市の新しい教育の方向性を広く示す機会にしませんか          このことについては直接計画案委に記載されていません</p> <p>意見の内容          中山間地等の極小規模校の統廃合による施設一体型小中一貫校とは異なる、市内第1号の新設小中一貫校を静岡市が世に示す機会となる今回について、静岡市の教育の将来像の一つとして、また方向性を示すものとして広く発信して実現、展開して欲しい。          例えば、          ① 蒲原地区の強みとしての幼児教育との連携を生かしていくという構想(文科省「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 - 審議経過報告 -」参照)          ② Society5.0の実現に向けた 教育・人材育成に関する政策パッケージ(案)          【CST I教育・人材育成WG最終とりまとめ】については、文科省以外からの提案も含まれ、是非参考にして積極的に取り入れていくべきものです。          ③ 広島県では子ども達の意見を取り込んだ新しい学校づくりを進めていこうとする実践が進行中のようです。</p> <p>これまでの進め方は、意見交換の対象が地域住民に限り情報提供が限られたりする姿勢で、残念ながら静岡市全体「オール静岡」で考えていこうという姿勢は感じられませんでした。蒲原地区に限らず市内・県内外からも意見を求める機会を設けて、今後の教育内容・方法を検討する機会をもっていただきたい。静岡市(とりわけ清水区)に元気を！ 人口減少対策の発想や新しいまちづくりの発想、などを打ち出す機会としていってほしいと願います。「静岡市が蒲原で作ろうとしている施設一体型小中一貫校は何だか面白そうぞ！」という関心を多くの方に持っていただけるよう、情報発信をしていきませんか？現在の地元の方と教育関係者の関心のある一部にしか認知されていないのは大変もったいないことだと感じています。</p> <p>参考資料          ① 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 - 審議経過報告 -          中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会          令和4年3月31日          ② Society5.0の実現に向けた 教育・人材育成に関する政策パッケージ(案)          【CST I教育・人材育成WG最終とりまとめ】          内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキンググループ          2022年4月1日          ③ 広島県教育支援センター SCHOOL—S</p> <p>※ホームページに公開するパブコメ一覧には、          「今回の建設基本計画に関する御意見ではありませんが、参考とさせていただきます。」と掲載すると予想しますが、全く扱うつもりがないのでしょうか？          では、教育内容・方法はいつどこか検討していくのでしょうか？</p>	<p>子ども園と学校との連携のあり方については、積極的に先進事例として市内外に発信していくよう情報発信の手法等も含めて検討が必要であると考えています。</p> <p>学校運営の視点や教育行政の動向等を踏まえながら、頂いたご意見も参考に、今後の事業を進めていきます。</p>

<p>44</p> <p>【子育て支援との連携】児童クラブを学校敷地内に設置するために適切な用地を確保してください。まずはとにかく用地を確保してください。何もかもが建った後で、用途に合わない、受け入れ人数に対して広さが全然足りない、最悪の場合、場所がないから他所へ行ってくれと言うだけは避けたいからです。小中合併に伴い、学童保育（放課後児童クラブ）の利用者が混乱することなくスムーズに、なるべく今まで通りのサービスを受けられるようにするためには、新校舎オープンと同じタイミングでの児童クラブ開設が不可欠です。現在の蒲原地区では東西小学校で異なる運営母体の保育サービスが提供されていますが、これを一本化して、新校舎の近く（学校敷地内）に開設することが望ましいと考えます。ただし、学校と保育サービスは役所においても別の管轄で、教育委員会にこれを設置してくれと言う意見ではありません。誰が建てて誰が運営するどんなクラブになるかは、これから地域の中で要望をまとめて役所の子育て支援関係の部署にかけ合うことになると思われます。とは言え、用地確保のためには学校を建てる側にも早い段階からの情報共有が必要です。どれくらいの建物なのかを大まかにでも決めるためには、まずはサービスの規模を知る必要があります。まず、現在行われているサービス内容を知る必要もあります。放課後、来所した子どもたちがどんな感じで集団生活を送っているのか、保護者が送り迎えする様子なども実際に見ると聞くとは違うでしょう。管轄が違うから、一括りにせず、教育委員会のご担当の方々にも現在の児童クラブの様子を一度見に来ていただきたいです。また、計画案にあった低学年を想定した運動場の遊具スペースも、放課後に児童クラブの子どもたちが活用できるようにクラブ施設の近くに作ってほしいです。特に、中学生の部活動と邪魔し合わないためにもご配慮をお願いします。固定型の遊具をいくつも置くよりも、一輪車やなわとびなどをして遊べるような平らで自由の利くスペースがあると助かります。一部の学校関係者や議員が、まだ何も決まっていないのにまことしやかに、児童クラブは空き校舎になった小学校を再利用すればいいとか、スクールバスで送迎すればいいとか、習い事のように民間委託して英語やスポーツをやらせればいいのか、根拠のない話を各所でしているとも聞きました。このような曖昧な状態ではいけないと強く感じて、今回バブコメに寄稿させていただきました。東小学校では、今年度の新1年生39名のうち16名が児童クラブを利用しています。高学年の利用も毎年あって、今年度は6年生までの全学年が在籍しています。下校時刻の異なる子どもたちを安全に保育するためには、学校の敷地内にクラブがあることがとても重要で、利用者の望むものだと考えます。新しい学校が今よりも不便になってしまっは本末転倒です。どうか後回しにせず、早に関係各所との情報共有をお願いします。</p>	<p>現在それぞれの学校内にある児童クラブは、小学校の統合移設に合わせて廃止し、新しい小中学校の敷地内に新クラブとして設置する予定です。</p>
<p>45</p> <p>【児童クラブについて】 計画案図の中に、児童クラブ棟となる建物が点線で示されていますが、これは現在蒲原に2つある児童クラブを移転・統合する、ということで決定なのですか。運営母体が異なる(NPO法人と社会福祉協議会)に加え、現場には統合の話すら出てもないため、利用者や支援員達も不安に思っていると聞きます。そもそも、児童クラブの統合や移転は、地元からの要望だと言ってよいのでしょうか。この学校統合自体も、利用者や生徒の視点が置き去りにされ、自治会の方だけが先走っているように見え、心配です。統合如何によっては、児童クラブ棟の規模や機能も大きく変わってくる問題ですが、先日の説明会では、担当課でないから分からないなどと、他人事のような回答でした。市として動く以上、担当課でないから分からないというのは、勘弁していただきたいです。学校統合に合わせて児童クラブも移転・統合する方向で考えているのなら、早急に2団体にも声を掛け、協議する場を設ける必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>静岡市の児童クラブは児童の安全を考えて、原則学校敷地内に設置しています。小学校の統合・移転に伴い、現在のクラブは廃止し、新しい小学校のクラブとして設置する予定です。現在の利用状況や今後の児童数の推計をみながら、必要な規模のクラブを整備することになります。なお、現事業者との協議や、利用者への説明は順次行っていきます。</p>
<p>46</p> <p>【東西小学校跡地について】 東西小学校跡地について。 ・校舎は取り壊すのか、他の施設として利用するのか。 ・体育館は残して体育施設として使用できるのか。 ・選挙の投票所としては残るのか、これを機に投票所の数を整理するのか。 ・防災拠点として残せるのか。学校がなくなる事で、防災計画上の不都合はないだろうか。 ・跡地利用の検討は、市独自ではなく県や民間なども入ることで、例えば庵原高校跡地の県施設を東小校舎へ移転し空いたスペースに道の駅をつくる…といった新たな構想等も出てくるのではないか。</p>	<p>跡地利用については、今後、地域の意見を伺いながら検討していきます。</p>